

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成 27 年度 兵庫県農業気象技術情報第 4 号 (8 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育状況</p> <p>県南部の生育は平年並みで、茎数がやや少ない。出穂は平年並みの見込みである。</p> <p>県北部では、生育は平年並み～やや早く、茎数が多い。出穂は平年並み～やや早くなる見込みである。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) いもち病の発生は、県全体では平年並みであるが、一部ではやや多発しているほ場もあり、今後の天候によっては穂いもちの発生につながる恐れがある。</p> <p>(2) 紋枯病の発生は、県全体ではやや少発生であるが、今後の天候によっては多発生につながる恐れがある。</p> <p>(3) ヒメトビウンカはやや多く、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイは平年並と予想される。今後の発生の推移に留意する。特にヒメトビウンカは西播磨地域での保毒虫率が昨年と同様に高い水準で推移しており、縞葉枯病の発生にも注意する。</p> <p>(4) 7 月におけるカメムシ類の生息密度はやや少ないが、今後はやや増加傾向を示すと予想される。</p>	<p>1 生育状況</p> <p>早・中生種では、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。</p> <p>極早生種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。</p> <p>乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、水管理は、湿潤(飽水)状態で行い、根の活力の維持に努める。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所など水田内に入ってよく観察し、いもち病が発病していないかを確認する。進行型病斑の多い場合は、治療効果の高い薬剤で防除する。</p> <p>(2) ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前の薬剤防除を行う。</p> <p>(3) ウンカ類の長期残効性の箱施用剤が散布されたイネにおいても、薬効切れに伴い発生が増える場合もあるので、ほ場内の発生に注意する。</p> <p>(4) カメムシ類の発生状況を確認したうえで、乳熟期～糊熟期に広域的に一斉防除を行う。畦畔・雑草地の除草は、出穂 2 週間前までに実施する。出穂間近な畦畔除草は、かえってほ場内へのカメムシ類の移動を促進するので避ける。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
大豆	全県共通	<p>1 生育状況 一部のは場では播種直後の集中豪雨では場が滞水し、発芽不良、出芽の不揃いが見られる。台風11号の風雨で茎葉の傷みや湿害が発生しているのは場では生育がやや遅れている。</p> <p>2 病害虫 茎疫病及び紫斑病の発生に注意する。 ハスモンヨトウ・カメムシ類等の発生に注意する。</p>	<p>1 生育状況 降雨後は、は場内に雨水が滞水しないように、排水対策に努める。 梅雨明け以降、土壌が乾燥する場合には走り水灌溉を行う。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、は場の乾燥には特に注意する。</p> <p>2 病害虫 茎疫病は、排水対策を徹底する。 紫斑病は開花期、カメムシ類は着莢初期～子実肥大期に防除する。 ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているので、早期発見に努め、見つけしだい除去する。</p>

◎ 栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を参考にすること。

〔参考〕 水稻生育予測サイトによる出穂期の予測

(7/30 現在)

地帯区分 地点 移植日 苗齢(不完全葉含む) 品種	県南平坦部 たつの市 揖保町	県南平坦部 加東市 天神	淡路平坦部 南あわじ市 榎列
	6/10 3.5 ヒノヒカリ	6/5 4.5 山田錦	6/20 3.5 キヌヒカリ
推定出穂期	8. 2 8	8. 2 5	8. 2 1
昨年推定出穂期	8. 2 7	8. 2 3	8. 2 0

(注) 予想出穂期は7/30以降、気温が平年並に推移した場合の予測値です。

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理 (1) 育苗中の高温と中期以降の肥料切れに注意する。 (2) 適切な栽培は場の確保とは場準備に努める。 (3) 定植後の灌水等活着促進、欠株の防止に努める。 (4) 降雨による作業遅れ、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>2 病害虫 ハイマダラノメイガの発生は7月下旬以降に増加し、平年並みの発生と予想される。</p>	<p>1 栽培管理 (1) 被覆資材使用や浮かせ育苗など高温対策と、早めに液肥等による追肥を行う。 (2) 本田は定植後から収穫期まで灌水が可能なは場を選び、弾丸暗きよや額縁明きよ等の排水対策を行う。適切な土壌水分時に耕うんし、高畝にする。 (3) 機械移植では、苗が直立し、鉢土が土壌に埋まるよう注意し、不十分なものは手直しする。定植後、灌水チューブ等で十分に灌水する。 (4) 排水溝の点検を常に行い、特に台風や大雨の前に溝をさらえておく。冠水時は早期の排水に努める。</p> <p>2 病害虫 「病害虫発生予察情報」「兵庫県農薬情報システム」を参考に適正に防除する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策										
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温乾燥による根や葉の傷みに留意する。</p> <p>(2) 樹勢に応じた枝管理に努める。</p> <p>(3) 適期収穫に努める。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1"> <tr> <td>クリ</td> <td>生育は平年よりやや早い。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>生育は平年より早く、果粒肥大や着色等は概ね良好。一部に日焼け、縮果症等の発生がみられる。</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>開花は平年よりやや早かった。(2日程度) 結実は満開期と雨が重なった園ではやや不良。肥大は良好。新梢の伸長停止は高温少雨のためやや早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>着果始めは前年より15日程度早い。(平年に比べ9日早い) 新梢の生育は平年並み。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>開花期が早かったことから、果実の生育は早い。生理落果は平年並み。</td> </tr> </table>	クリ	生育は平年よりやや早い。	ブドウ	生育は平年より早く、果粒肥大や着色等は概ね良好。一部に日焼け、縮果症等の発生がみられる。	ナシ	開花は平年よりやや早かった。(2日程度) 結実は満開期と雨が重なった園ではやや不良。肥大は良好。新梢の伸長停止は高温少雨のためやや早い。	イチジク	着果始めは前年より15日程度早い。(平年に比べ9日早い) 新梢の生育は平年並み。	温州ミカン	開花期が早かったことから、果実の生育は早い。生理落果は平年並み。	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温乾燥が続く場合は、適度な土壌水分を維持するため、灌水、敷きわら等のマルチなど乾燥対策を行う。カンキツ類では、干ばつにより葉が巻き始めたら、1回あたり20～30mm程度の灌水を行う。</p> <p>(2) 新梢が混み合っている場合は、必要に応じて新梢管理、夏期剪定を行う。</p> <p>(3) カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p>
クリ	生育は平年よりやや早い。												
ブドウ	生育は平年より早く、果粒肥大や着色等は概ね良好。一部に日焼け、縮果症等の発生がみられる。												
ナシ	開花は平年よりやや早かった。(2日程度) 結実は満開期と雨が重なった園ではやや不良。肥大は良好。新梢の伸長停止は高温少雨のためやや早い。												
イチジク	着果始めは前年より15日程度早い。(平年に比べ9日早い) 新梢の生育は平年並み。												
温州ミカン	開花期が早かったことから、果実の生育は早い。生理落果は平年並み。												
		<p>2 台風対策</p> <p>3 病害虫</p> <p>ナシでは4月に雨が多かったため、黒星病の発生が見られたが、5月には高温少雨傾向となったため、ハダニ類の発生が例年より早く、多発傾向である。</p>	<p>2 台風対策</p> <p>枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。</p> <p>台風通過前から、病害対策のため防除を行う。カンキツ類は台風襲来前や通過後にはかいよう病の予防散布を行う。黒点病は前回散布から降水量が200～250mmを超えたら、防除を行うと共に、感染拡大を防ぐため、枯れ枝除去を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。</p> <p>3 病害虫</p> <p>ほ場でのアブラムシ類、ハダニ類、カメムシ類の発生を注視し、防除薬剤については「兵庫県農薬情報システム」を参考に選定し、農薬使用基準を守るとともに周辺農地への飛散防止に努める。</p>										

◎野菜・果樹の情報については、原則2ヶ月ごとに作成します。

◎防除については「病害虫発生予察情報」及び「兵庫県農薬情報システム」を参考にすること。

※本情報は、7月30日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月1日～8月31日）

[平成27年7月30日 大阪管区气象台発表]

【概要】期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

【確率】

○気温、降水量及び日照時間

【近畿地方】	□低い(少ない)	□平年並	■高い(多い)	(単位:%)
気温	10	40	50	
降水量	40	40	20	
日照時間	20	30	50	

○各週の気温経過

【近畿地方】	□低い	□平年並	■高い	(単位:%)
1週目	10	10	80	
2週目	20	40	40	
3～4週目	30	30	40	

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（8月～10月）

[平成27年7月24日 大阪管区气象台発表]

【概要】8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

10月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

【確率】

○気温

【近畿地方】	□低い	□平年並	■高い	(単位:%)
3か月	30	40	30	
8月	30	40	30	
9月	30	40	30	
10月	30	40	30	

○降水量

【近畿地方】	□少ない	□平年並	■多い	(単位:%)
3か月	40	30	30	
8月	30	30	40	
9月	30	40	30	
10月	40	40	20	

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1981～2010年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・ 「病害虫発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・ 「兵庫県農薬情報システム」
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・ 「Web 水稲生育予測システム」
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・ 「携帯用水稲生育予測」
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・ 兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)
農産班:農産担当 内線 4065
農産班:産地育成担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・ 県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)